

## 平成 27 年度カムイワッカ地区の利用環境と現地状況について

## 1. 平成 27 年度カムイワッカ地区の利用環境

カムイワッカ地区の利用に関する変遷を表 1 に示す。周辺の整備工事に伴い、同地区の利用期間や環境が平成 23 年以降 3 年ごとに変化している。本年度は過去 4 年間と同様に 8 月と 9 月の 2 期に分けて車両規制を行い、期間は 8 月 1 日～8 月 25 日、9 月 19 日～9 月 23 日の計 30 日間で設定した。

表 1 カムイワッカ地区の利用変遷

年度(平成)	道道知床公園線の通行	車両規制期間	硫黄山登山道へのアクセス	湯の沢利用区間
11	知床五湖～知床大橋間 全面利用可 (車両規制期間はシャトルバスのみ通行可)	お盆を除く16日間	可	規制なし (五の滝まで)
12		お盆を含む23日間		
13				
14				
15				
16	知床五湖～知床大橋間 通年通行止め (シャトルバスによるアクセスのみ)	7月13日～9月20日の 70日間	不可	五の滝利用 自粛
17				
18				
19				
20				
21				
22	知床五湖～カムイワッカ間 全面利用可 (車両規制期間はシャトルバスのみ通行可)	8月1日～8月25日、 9月15日～9月24日 までの計35日間	特例申請により利用可 (6月25日～8月25日)	一の滝上部 まで
23				
24				
25	知床五湖～カムイワッカ間 全面利用可 (車両規制期間はシャトルバスのみ通行可)	8月1日～8月25日、 9月13日～9月22日 までの計35日間	特例申請により利用可 (6月21日～9月23日)	
26				
27	8月1日～8月25日、 9月19日～9月23日 までの計30日間	特例申請により利用可 (6月20日～9月23日)		

また、カムイワッカ地区の利用に関する全体日程を図 1 に示す。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
全体日程	6/1		8/1	8/25	9/19	9/23	11/3
	自由利用期		車両規制期	自由利用期	車両規制期	自由利用期	
	6/20	道路特例使用				9/23	
カムイワッカ地区監視員配置		7/18				9/26	
知床自然センター警備員配置			8/9	8/16	9/19	9/23	
知床五湖警備員配置			8/1	8/25	9/19	9/23	

図 1 カムイワッカ地区の利用に関する全体日程

## 2. カムイワッカ地区及びその周辺の利用に関する昨年度からの変更点

### 1) カムイワッカ地区シャトルバス停留所の変更

昨年度の車両規制期は、カムイワッカ橋と仮橋の2本の橋を利用してシャトルバスが旋回できていたのに対し、本年度は整備工事によって仮橋が撤去され、バス旋回のため湯の沢から500mほど離れた地点にバス停留所を設置し、付近に同地区の利用に関する案内看板を設置した。(写真1、写真2)カムイワッカバス停留所の他、湯の沢付近や知床五湖フィールドハウス、知床自然センターにも同様の案内看板や掲示物を設置し、関係施設全体で利用者に情報を周知した。



写真1 カムイワッカバス停留所



写真2 バス停留所付近の案内看板

バス停留所の変更に伴い、停留所と湯の沢間の500mは徒歩移動となった。利用者からの苦情やヒグマとの遭遇リスクが懸念されていたが、それらのトラブルは報告されていない。利用者からは、湯の沢からバス停留所までの徒歩移動を楽しめた、という感想があった。(写真3)



写真3 湯の沢からカムイワッカバス停留所まで移動中の利用者

また、バス停留所の変更が直接関係していたか否かは不明だが、利用者が最終便の復路シャトルバスに乗り遅れる事案が3件発生した。その状況を表2に示す。

表2 カムイワッカ地区でのバスの乗り遅れ発生状況

日付	トラブル	内容
8月4日	バス乗り遅れ	硫黄山から下山してきた外国人登山客1名が忘れてきたリュックを取りに登山口に戻ったため、シャトルバス最終便に乗り遅れた。その後、知床五湖フィールドハウススタッフが車両で登山者をウトロ市街のキャンプ場まで送った。
9月21日	バス乗り遅れ	シャトルバス最終便に乗り遅れた利用者がいたため、斜里バスが臨時便を運行し対応した。
9月22日	バス乗り遅れ	硫黄山登山者がシャトルバス第13便の運休期間だと知らずにカムイワッカ地区に取り残された。その後、監視員が警察に通報し、対応した。

2) 知床五湖駐車場収容台数の変更

昨年度は知床五湖駐車場の車両収容可能台数が約 100 台だったのに対し、本年度は渋滞緩和を目的として収容可能台数が 130 台に増設された。駐車場に配置した警備員の報告から、本年度の車両規制期間中の日ごと累計満車時間を昨年度と比較したものを図2に示す。駐車場の増設によって交通渋滞が緩和された結果、昨年度の日平均累計満車時間が約 4 時間だったのに対し、本年度は約 2 時間 30 分であった。

駐車場入り口から駐車待機車両末端部までの最大渋滞距離は 9 月 21 日の 1200m であった(昨年は 8 月 12 日の 700m)。駐車場増設の効果は見られるが、ピーク時の混雑状況は一部解消されていない。

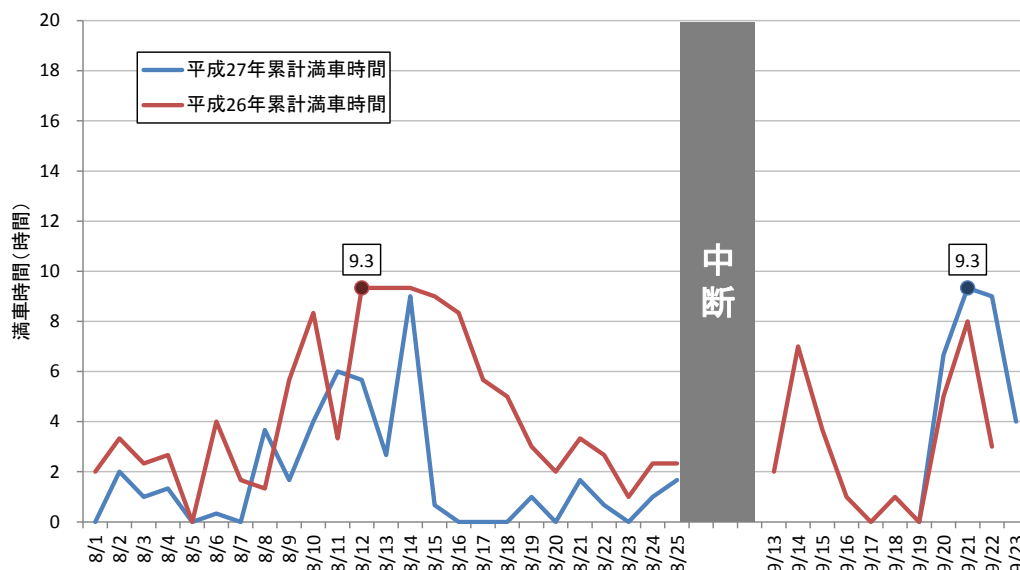


図2 知床五湖駐車場の日ごと累計満車時間

また、湯の沢駐車帯の混雑状況を写真4、写真5、表3に示す。混雑状況（カムイワッカ現地監視員の報告から20台以上の駐車が続いた日）が、今年度は15日発生し、昨年の12日より増加した。知床五湖駐車場の増設がカムイワッカ湯の沢駐車帯の混雑緩和に効果があったかは不明である。



写真4 湯の沢左岸駐車場の混雑状況



写真5 湯の沢右岸駐車場の混雑状況

表3 自由利用期における湯の沢駐車帯の混雑状況

日付	最大駐車台数	混雑した時間帯	駐車待機車両の有無(○・×)	備考
7月18日	28	14:00	×	登山者7台
7月19日	34	終日	○	登山車両16台
7月20日	30	10:00	×	登山車両7台
7月26日	23	11:00 - 11:20	×	
7月27日	20	15:00 - 15:10	×	
7月29日	20	12:00	×	
7月30日	21	11:30	×	
8月26日	25	10:30	×	バイク3台 登山車両2台
8月27日	30	12:00	×	登山車両2台
8月28日	21	11:00	×	
8月29日	28	15:30	○	登山車両2台
8月30日	25	10:30	×	バイク1台 登山車両7台
9月5日	25	12:00	×	
9月7日	20	11:30 - 12:00	×	登山車両1台
9月12日	22	10:50	×	

### 3. 平成 27 年度カムイワッカ地区の現地状況

7月10日～10月10日の現地状況をとりまとめた。特に、監視員が配置され、現地状況を正確に把握できた期間を中心に取り扱い、その他の時期については可能な限り現地状況の把握を行った。また、車両規制期間中には監視員から1日2回の定時連絡を受け、現地の異状の有無を確認した。トラブル等の発生や現地の状況については監視員および関係機関から報告を受けた。昨年度は車両規制期の一部に現地監視員を配置しない期間を試験的に設けていたのに対し、本年度は一定の期間を通して配置した。配置期間は71日間と、昨年より6日間長かった。監視員配置期間中、現地でのトラブル発生状況や湯の沢駐車帯の混雑状況、ヒグマ出没時の利用者の避難誘導対応の報告があった。

#### 1) ヒグマの出没状況

本年度の道道知床公園線開通日である6月1日より10月10日までの期間内でのカムイワッカ地区およびその周辺におけるヒグマの目撃件数を表4に示す。カムイワッカ地区及びその周辺でのヒグマの目撃件数は98件と、過去6年の中では平成23年度に次ぐ目撃件数であり、カムイワッカ地区においては過去最多の目撃件数であった。

表4 カムイワッカ地区及びその周辺におけるヒグマの目撃件数

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
カムイワッカ地区	20	16	22	4	0	39
道道知床公園線沿い	14	67	60	19	31	54
硫黄山登山道	0	28	10	0	3	5
計	34	111	92	23	34	98

また、現地監視員によるカムイワッカ地区内でのヒグマの出没時の利用者の避難誘導が期間中数件あり、それらの対応記録を表5に示す。

表5 ヒグマ出没時の現地監視員対応記録

日付	内容
7月22日	カムイワッカ右岸付近にヒグマが出没したため、利用者の車両を左岸駐車帯へ誘導。
7月29日	ヒグマ出没のため、利用者の車両を左岸駐車帯へ誘導。16:10～17:40湯の沢内への利用者の立ち入りを一時規制。
8月1日	ヒグマ出没のため、利用者を沢内から避難誘導。
8月9日	ヒグマ出没のため、湯の沢内への利用者の立ち入りを一時規制。

2) 増水による湯の沢の立ち入り規制

監視員配置期間中、一時的な増水による湯の沢内への立ち入り規制が9月中に5回あった。

3) 一の滝上部の立入禁止の規制ラインについて

昨年度と同様に、一の滝上部の規制ラインに監視員が配置されており、規制ラインを突破した湯の沢利用者は、監視員配置期間中に確認されただけでも13名（昨年度は16人）であった。

4) 負傷者の発生状況

負傷者の発生件数は1件で、利用者1名が裸足で湯の沢に入った際に負った切り傷であった。（8/11）

5) 道道知床公園線における交通事故等の発生状況

道道知床公園線（知床五湖～カムイワッカ間道路）での交通事故は9件の報告が警察に寄せられており、いずれも物損事故であった。

6) 登山者の遭難等による救助要請

本年度の登山者による遭難事故等は報告されていない。（昨年度は5件）